

5. 文化総合学科専門科目

1 カリキュラムの概要

文化総合学科のカリキュラムは、「現代社会」と「歴史・思想」の2つの専修からなっています。「現代社会」専修の学問領域は、異文化コミュニケーション論、文化人類学、法学、国際関係論、心理学などから構成されています。また、「歴史・思想」専修は、西洋史、日本史、哲学、倫理学、思想史などから構成されています。

これらの専修や学問領域は独立した「コース」ではないので、これらの専修や学問領域にまたがって、自分の履修したい科目を選ぶことができます。文化総合学科では、社会の事象や課題を分析する人文社会科学（高校での「社会科系科目」をイメージして下さい）を数多く配置しており、その中でみなさんが好きなテーマをみつけられるように設定されているのです。

4年間で卒業論文を仕上げるためには、なるべく早くテーマを見つけ、深めていく必要があります。そのために、1年次から基礎的な学問を勉強し、学問の「積み上げ」をしていかなければなりません。

2 2つの専修について

I 「現代社会」専修

現代の社会と文化について、その制度や心理を含めて多面的に研究します。また、現代社会における異文化間のコミュニケーションのあり方についても研究します。

現代の社会は制度（＝システム）として構成されており、まず、それを研究対象とします。高校という「政治・経済」の内容にあたる政治学・法学・経済学・社会学・心理学などの社会科学系の分野がそれに該当します。

異文化コミュニケーション論を研究するためには、相応の語学力が必要となりますから、語学学習もしっかりとおこないます。またこの研究の性質のため、特定の言語の習得とその言語を用いる国や民族の文化研究をセットにした履修を推奨します。このほか、言語以外の表現（芸術表現や映像による表現など）も研究対象となります。

II 「歴史・思想」専修

現代社会と文化をその成り立ちから理解するために、背景や基盤となっている歴史や思想について研究します。

歴史は、高校の「世界史」「日本史」に対応する「西洋史」「日本史」「東洋史」などの科目からなっています。歴史に興味のある人はこの分野を重点的に勉強することになります。しかし、日本史を研究する際にも世界のさまざまな国の歴史を知る必要があります。なお、ここには文化史や宗教史など、特定の事柄を中心とした科目もあります。

思想は、高校の「倫理」の内容に当たる「思想」「宗教」に関する科目から構成されています。具体的には、西洋の哲学、倫理学、思想、宗教を中心として、日本・中国の哲学、思想、宗教を含む古今東西の思想についての科目も用意されています。思想や宗教について深く研究したい人はこの分野を重点的に勉強することになります。他の学問分野を扱いたいと考えている人も、思想や宗教はそれら

の学問分野の基本的部分に関わってくることが多いですから、必要に応じて選択する場合もあるでしょう。

3 科目の区分と履修の心構え

文化総合学科の科目は授業の形態やレベルに応じて、以下のように区分されます。

(1) 入門科目

入門科目は講義形式の授業で、各専門分野に入るに当たって必要な入門的な知識や考え方について学びます。これらの科目はどのような専門分野に進むにしても基礎として役に立ちます。その多くは1、2年次に開講されているので、何を研究するかが決まっていない人や迷っている人はなるべく多くの入門科目を履修してみるとよいでしょう。

また入門科目を履修するためには、共通科目に配置されている該当の科目を履修することが必要です（たとえば文化総合学科専門科目で入門科目である「異文化コミュニケーション論入門」を履修するためには、教養科目である「異文化コミュニケーション」を履修していなければなりません）。詳しくは、「7 文化総合学科専門科目の履修条件について」をご確認ください。

(2) 特講科目

特講科目は、一般的で基礎的な入門科目に比べて、より専門的で特殊な内容を扱います。したがって入門科目をある程度履修して自分の研究したいテーマが少しずつ絞られてきたら、そのテーマに関連した特講科目を履修することになります。これらの科目の多くは、2、3年次に開講されています。

また、特講科目を履修するためには、前提となる入門科目を履修することが必要です。

(3) 基礎演習

基礎演習は文化総合学科1年生を対象とした科目です。この科目は大学における学問研究の入り口として、どのように研究テーマを選んでいけばよいのか、どのように学んでいけばよいのかを身につけることを目的とします。必要な資料や文献の探し方、レポート作成や研究報告の仕方を、担当教員が具体的、個別的に指導します。教材は、原則として各担当教員の専門分野に関連したものが用いられます。

(4) 演習科目

演習科目は2、3年次に開講されている科目です。基礎演習と異なって、より専門的な内容が扱われます。卒業研究へとつながるテーマを見つけるためには2年次と3年次で連続して同じ専門分野の演習を履修することが望ましいです。しかし、自分の研究テーマが絞りきれない人は、2年次に他の専門分野の演習も履修することが可能です。

(5) 卒業研究演習

卒業研究演習は自分がこれまで学んできた成果を卒業論文にまとめるための科目です。指導を受けたい教員の卒業研究演習を履修するためには、少なくとも3年次までにその教員の演習を履修しておく必要があります。

(6) 卒業研究

卒業研究は研究の成果を論文にまとめ上げることを指します。指導教員と学科の評価を受けて単位が認められます。

(7) 他学科の科目

文学部では、原則として所属学科以外の学科専門科目を履修することができます。ただし、なかには受け入れが予定されていない科目や担当教員の許可が必要な科目もありますので、シラバスや当該学科の履修の手引きを参照して下さい。

4 科目の区分と構成・履修の流れ

以下、履修に当たっての留意点をまとめておきます。

- ① 基礎演習は文化総合学科1年生の必修科目です。前期・後期の半期科目で、自分の関心にあわせて前期と後期で別々の教員の科目を履修することになります。
- ② 演習科目は2、3年次に開講されており、それぞれの内容は異なるように構成されています。継続して履修すれば、その専門分野についてより深く学べるようになっていきます。専門分野によっては2年次の演習を履修していることが3年次の演習を履修するための条件とされる場合があります。3年次の演習はどの卒業研究演習を履修するか（どの教員のもとで卒業論文を書くのか）に関わってくるので、2年次演習を選択する際には、ある程度、卒業研究のテーマを想定しておく必要があります。ただし、教員によっては3年次演習のみの履修であっても、卒業研究演習の履修を認める場合があります。必ず2年次の演習選択時にシラバスなどで確認して下さい。
- ③ 学科が定める卒業のために必要な単位については、文学部の授業科目履修要項で確認して下さい。

5 文化総合学科の専任教員

文化総合学科所属の専任教員は以下のとおりです。

石井佑可子	准教授	社会心理学（対人距離化、メタ認知）
伊藤 明美	教授	異文化コミュニケーション論、英語教育論
上原 賢司	准教授	現代の政治理論、グローバル正義論
大矢 一人	教授	占領期の地方教育改革史研究
勝西 良典	准教授	近代哲学における諸研究
埴 浩伸	教授	社会科教育法
平井 上総	教授	日本中世史、戦国大名および織田・豊臣政権の研究
平井 孝典	准教授	図書館情報学、19世紀フィンランドにおける情報アクセス環境構築の実務
松村 良祐	准教授	中世哲学（トマス・アクィナス、ボナヴェントゥラ）、キリスト教思想
松本あづさ	准教授	日本近世史、近世松前・蝦夷地に関する研究
真鶴 俊喜	教授	立憲主義をめぐる現代日本の諸問題
渡邊 浩	教授	ヨーロッパ中世史、キリスト教史

6 4年間の履修モデル

以下、卒論につながる専門分野（学科専任教員が担当する分野）について、大まかな履修モデルを示します。（☆以下の表の科目の履修のみで進級・卒業要件が満たされるわけではありません。進級・卒業要件については、該当項目をしっかりと確認して下さい。）

「現代社会」専修

異文化コミュニケーションの履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				異文化コミュニケーション論特講 d	異文化コミュニケーション論演習 d	
	前期				異文化コミュニケーション論特講 c	異文化コミュニケーション論演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考のこと）	外国語科目	Eng.for GC d	異文化コミュ特講 b 英（米仏）文化論または中韓文化論 b の中から一つ	異文化コミュニケーション論演習 b	
	前期			Eng.for GC c	異文化コミュニケーション論特講 a 英（米仏）文化史または中韓文化論 a の中から一つ 女性論・映像表現論・造形美術論の中から一つ	異文化コミュニケーション論演習 a	
1年	後期	異文化コミュニケーション	外国語科目	Eng.for GC b 異文化コミュニケーション入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期			Eng.for GC a		「現代社会」基礎演習 A	

文化人類学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				文化人類学特講 A-d	文化人類学演習 d	
	前期				文化人類学特講 A-c 文化史*（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ文化史のうちどれか一つ）	文化人類学演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考のこと）	外国語科目		文化人類学特講 A-b [身体表現論 造形美術論 韓国文化論 a または b]	文化人類学演習 b	
	前期				文化人類学特講 A-a [映像表現論 音楽社会学 a] 文化論*（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ文化論、中国文化論 a または b のうちどれか一つ 1）	文化人類学演習 a	
1年	後期	文化人類学	外国語科目	文化人類学入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 B	

法学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				法学特講 A-b	法学演習 d	
	前期				法学特講 B-b [音楽社会学 b]	法学演習 c	
2 年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		法学特講 A-a、法学特講 C-b [身体表現論 造形美術論]	法学演習 b	
	前期				法学特講 B-a 法学特講 C-a [映像表現論 音楽社会学 a]	法学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	基礎法学 A、B、C		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	日本国憲法				「現代社会」基礎演習 C	

国際関係論の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				国際関係論特講 A-d	国際関係論演習 d	
	前期				国際関係論特講 A-c	国際関係論演習 c	
2 年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		国際関係論特講 A-b、国際関係論特講 B-a	国際関係論演習 b	
	前期				国際関係論特講 A-a、国際関係論特講 B-a	国際関係論演習 a	
1 年	後期		外国語科目	国際関係論入門 政治学(国際政治学)入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	国際関係論				「現代社会」基礎演習 D	

心理学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				心理学特講 A-d 心理学特講 B-b	心理学演習 d	
	前期				心理学特講 A-c 心理学文献講読 b (女性論 b)	心理学演習 c	
2 年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		心理学特講 A-b 心理学特講 B-a	心理学演習 b	
	前期			統計学入門 (※ 1 年開講科目だが、2 年履修を推奨)	心理学特講 A-a 心理学文献講読 a (女性論 a)	心理学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	心理学入門 (社会学入門)		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	心理学 (社会学)				「現代社会」基礎演習 E	

「歴史・思想」専修

西洋史の履修モデル

前近代		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				歴史資料論 A、西洋史特講 C-b、西洋史文献講読 d、法学特講 B-b、古典ギリシア語 b	西洋史演習 d	
	前期				西洋史特講 A-c、西洋史特講 B-b、西洋史文献講読 c、古典ギリシア語 a	西洋史演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		西洋史特講 A-b、西洋史特講 C-a、西洋史文献講読 b、東洋史特講 b、イギリス文化論、フランス文化論、ドイツ文化論、キリスト教文化論 b、ラテン語Ⅱ-b	西洋史演習 b	
	前期				西洋史特講 A-a、西洋史特講 B-a、イギリス文化史、フランス文化史、ドイツ文化史、法学特講 B-a、キリスト教文化論 a、ラテン語Ⅱ-a	西洋史演習 a	
1 年	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	西洋史入門、東洋史入門 a、東洋史入門 b	ラテン語Ⅰ-b、古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	西洋史			ラテン語Ⅰ-a	「歴史・思想」基礎演習 A	

近代		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				歴史資料論 A、西洋史特講 D-b、西洋史文献講読 d、2 [国際関係論特講 A-d、法学特講 B-b]	西洋史演習 d	
	前期				西洋史特講 A-c、西洋史特講 C-b、西洋史文献講読 c、4 [国際関係論特講 A-c、音楽社会学 b、法学特講 A-a]	西洋史演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		西洋史特講 A-b、西洋史特講 D-a、西洋史文献講読 b、6 [アメリカ文化論、イギリス文化論、フランス文化論、ドイツ文化論]、6 [東洋史特講 a、東洋史特講 b、キリスト教文化論 b、国際関係論特講 A-b、法学特講 A-b、法学特講 C-b、女性論 b]	西洋史演習 b	
	前期				西洋史特講 A-a、西洋史特講 C-a、西洋史文献講読 a、6 [アメリカ文化史、イギリス文化史、フランス文化史、ドイツ文化史]、文総特殊講義 b(西洋史)、6 [キリスト教文化論 a、音楽社会学 a、国際関係論特講 A-a、法学特講 B-a、法学特講 C-a、女性論 a、近世・近代哲学史]	西洋史演習 a	
	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	西洋史入門、東洋史入門 a、東洋史入門 b	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
1 年	前期	西洋史				「歴史・思想」基礎演習 A	

日本史の履修モデル

中世		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				歴史資料論 B 歴史資料論 D	日本史演習 A-d 日本史演習 B-d	
	前期				日本史特講 A-c 日本史特講 B-c	日本史演習 A-c 日本史演習 B-c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		日本史特講 A-b 日本史特講 B-b	日本史演習 A-b 日本史演習 B-b	
	前期				日本史特講 A-a 日本史特講 B-a 日本史特講 D	日本史演習 A-a 日本史演習 B-a	
1 年	後期		外国語科目	日本史入門 A 日本史入門 B		学科の他の教員の基 礎演習（ただし、「歴 史・思想」基礎演習 C が望ましい）	
	前期	日本史 A 日本史 B				「歴史・思想」基礎演 習 B	

近世		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				歴史資料論 B 歴史資料論 D	日本史演習 A-d 日本史演習 B-d	
	前期				日本史特講 A-c 日本史特講 B-c	日本史演習 A-c 日本史演習 B-c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		日本史特講 A-b 日本史特講 B-b 日本史特講 C-b	日本史演習 A-b 日本史演習 B-b	
	前期				日本史特講 A-a 日本史特講 B-a 日本史特講 C-a	日本史演習 A-a 日本史演習 B-a	
1 年	後期		外国語科目	日本史入門 A 日本史入門 B		学科の他の教員の基 礎演習（ただし、「歴 史・思想」基礎演習 B が望ましい）	
	前期	日本史 A 日本史 B				「歴史・思想」基礎演 習 C	

思想の履修モデル

哲学 [美学]		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				哲学特講 A-d 哲学特講 B-d	哲学演習 d	
	前期				哲学特講 A-c 哲学特講 B-c [音楽社会学 b]	哲学演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		哲学特講 A-b 哲学特講 B-b 倫理学特講 A-b (B-b) 現代哲学史 [身体表現論 造形 美術論]	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期				哲学特講 A-a 哲学特講 B-a 倫理学特講 A-a (B-a) 近世・近代哲学史[映像表現論 音楽社会学 a]	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	哲学 倫理学				「歴史・思想」基礎演習 D か E	

倫理学		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				倫理学特講 A-d 倫理学特講 B-d	倫理学演習 d	
	前期				倫理学特講 A-c 倫理学特講 B-c	倫理学演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		哲学特講 A-b (B-b) 倫理学特講 A-b 倫理学特講 B-b 現代哲学史	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期				哲学特講 A-a (B-a) 倫理学特講 A-a 倫理学特講 B-a 近世・近代哲学史	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1 年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	哲学 倫理学				「歴史・思想」基礎演習 D か E	

思想 [美学]		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4 年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3 年	後期				哲学特講 A-d 哲学特講 B-d 倫理学特講 A-d 倫理学特講 B-d	哲学演習 d 倫理学演習 d	
	前期				哲学特講 A-c 哲学特講 B-c 倫理学特講 A-c 倫理学特講 B-c [音楽社会学 b]	哲学演習 c 倫理学演習 c	
2 年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にすること）			哲学特講 A-b 哲学特講 B-b 倫理学特講 A-b 倫理学特講 B-b 現代哲学史 [身体表現論 造形美術論]	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期		外国語科目		哲学特講 A-a 哲学特講 B-a 倫理学特講 A-a 倫理学特講 B-a 近世・近代哲学史 [映像表現論 音楽社会学 a]	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1 年	後期	哲学 倫理学	外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	「歴史・思想」基礎演習 E	
	前期					「歴史・思想」基礎演習 D	

7 文化総合学科専門科目の履修条件について

文化総合学科の学科専門科目では、いくつかの例外を除き、履修条件として教養科目を含めた前提科目が指定されている。

以下の表のA欄の教養科目の修得が、矢印で関連付けられたB欄の文化総合学科専門科目の履修条件となっている。つまり、B欄の科目を履修するにはA欄の科目の単位を取得済みでなくてはならない（ただし、B欄の科目が前期開講の場合はA欄の科目と同時履修でもよい）。さらに、A欄の科目とB欄の科目を合わせて履修することが、C欄の科目の履修条件となっている（C欄の科目が後期開講科目である場合は、演習を除きB欄の科目と同時に履修してもよい）。したがって、将来的にC欄の科目の履修を希望する場合は、1年次に少なくともA欄の教養科目を修得しておくことが望ましい。

なお、複数種類のA欄・B欄科目の組み合わせが条件になっている科目は、いずれか一つの条件を満たしていれば履修することができる。（例：「イギリス文化論」は「文化人類学+文化人類学入門」、「異文化コミュニケーション+異文化コミュニケーション論入門」、「西洋史+西洋史入門」のいずれかを満たしていれば履修可。）

【文化総合学科以外の学生についての特例】

C欄の*の付いた科目については、文化総合学科以外の学生で履修登録時に通算GPAの数値が2.4以上である場合には、上記の条件を満たしていなくても履修することができる。（ただし、受講者数の調整等が必要となる場合は、条件を満たした学生が優先される。）

A 教養科目		修得 が 条件	B 文化総合学科専門科目 (1年次対象)	履修 が 条件	C 文化総合学科専門科目 (2年次以上対象)
区分	科目名				
国際 理解	文化人類学	→	文化人類学入門	→	文化人類学演習 a・b
					文化人類学演習 c・d
					文化人類学特講 a～d
					*イギリス文化論
					*アメリカ文化論
					*フランス文化論
					*ドイツ文化論
					*中国文化論 a
					*中国文化論 b
					*韓国文化論 a
					*韓国文化論 b
					*女性論 a
					*女性論 b
	異文化コミュニケーション	→	異文化コミュニケーション論入門	→	異文化コミュニケーション論演習 a・b
					異文化コミュニケーション論演習 c・d
					異文化コミュニケーション論特講 a～d
					*イギリス文化論
					*アメリカ文化論
					*フランス文化論
					*ドイツ文化論

A 教養科目		修得 が 条件	B 文化総合学科専門科目 (1 年次対象)	履修 が 条件	C 文化総合学科専門科目 (2 年次以上対象)
区分	科目名				
国際 理解	異文化コミュニケーション	➡	異文化コミュニケーション論入門	➡	* 中国文化論 a
					* 中国文化論 b
					* 韓国文化論 a
					* 韓国文化論 b
					* 女性論 a
					* 女性論 b
	国際関係論	➡	国際関係論入門 ----- 政治学（国際政治学）入門	➡	国際関係論演習 a・b
					国際関係論演習 c・d
国際関係論特講 A-a～d					
国際関係論特講 B-a・b					
社会 と 文化	経済学	➡	経済学入門		
	社会学	➡	社会学入門	➡	* 音楽社会学 a
	日本国憲法	➡	基礎法学 A（憲法）	➡	法学演習 a・b
			基礎法学 B（民法）		法学演習 c・d
			基礎法学 C（国際関係法）		法学特講 A-a・b
					法学特講 B-a・b
	心理学	➡	心理学入門	➡	法学特講 C-a・b
					心理学演習 a・b
					心理学演習 c・d
					心理学特講 A-a～d
					心理学特講 B-a・b
					心理学文献講読 a・b ※1
					* 女性論 a
	* 女性論 b				
	歴史 ・ 思想	西洋史	➡	西洋史入門	➡
西洋史演習 c・d					
西洋史特講 A-a～c					
西洋史特講 B-a・b					
西洋史特講 C-a・b					
西洋史特講 D-a・b					
西洋史文献講読 a～d					
歴史資料論 A					
歴史資料論 C					
* イギリス文化論					
* アメリカ文化論					
* フランス文化論					
* ドイツ文化論					
* イギリス文化史					
* アメリカ文化史					
* フランス文化史					
* ドイツ文化史					
* キリスト教文化論 a					
* キリスト教文化論 b					

A 教養科目		修得 が 条件	B 文化総合学科専門科目 (1年次対象)	履修 が 条件	C 文化総合学科専門科目 (2年次以上対象)
区分	科目名				
歴史・思想	日本史A	→	日本史入門A	→	日本史演習A-a・b
					日本史演習A-c・d
					日本史特講A-a～c
					日本史特講C-a・b
					日本史特講D
					歴史資料論D
	日本史B	→	日本史入門B	→	日本史演習B-a・b
					日本史演習B-c・d
					日本史特講B-a～c
					日本史特講C-a・b
					日本史特講D
					歴史資料論B
	東洋史	→	東洋史入門a ※2	→	東洋史特講a
			東洋史入門b ※3		東洋史特講b
	哲学	→	哲学入門	→	哲学演習a・b
					哲学演習c・d
					哲学特講A-a～d
					哲学特講B-a～d
					古代・中世哲学史 ※4
					近世・近代哲学史
					現代哲学史
					*音楽社会学a
					*音楽社会学b
					*イギリス文化史
					*アメリカ文化史
					*フランス文化史
					*ドイツ文化史
					*キリスト教文化論a
					*キリスト教文化論b
					*身体表現論
					*造形美術論
					*映像表現論
	倫理学	→	倫理学入門	→	倫理学演習a・b
					倫理学演習c・d
					倫理学特講A-a～d
					倫理学特講B-a～d
					古代・中世哲学史 ※4
					近世・近代哲学史
					現代哲学史
					*音楽社会学a
					*音楽社会学b
					*イギリス文化史
					*アメリカ文化史

A 教養科目		修得 が 条件	B 文化総合学科専門科目 (1年次対象)	履修 が 条件	C 文化総合学科専門科目 (2年次以上対象)
区分	科目名				
歴史 ・ 思想	倫理学	➡	倫理学入門	➡	*フランス文化史
					*ドイツ文化史
					*キリスト教文化論 a
					*キリスト教文化論 b
					*身体表現論
					*造形美術論
					*映像表現論

※1 「心理学文献講読 a・b」は、2019 年度入学生から条件が適用される。

※2、※3 「東洋史入門 a」・「東洋史入門 b」は、「東洋史特講 a・b」の履修条件ではない。つまり、教養科目の「東洋史」が修得済みであれば、「東洋史入門 a」または「東洋史入門 b」を履修していなくても「東洋史特講 a・b」を履修してよい。

※4 「古代・中世哲学史」は1年次後期開講。1年次後期に「哲学入門」または「倫理学入門」と同時に履修してよい。